

イメージングの総合企業へ

開発から日常診療まで網羅



鈴木氏

イメージングCROのマイクロンは、設立20周年を見据えた2025年ビジョン「イメージングを総合的に研究し、進化させる企業」に向け、画像解析、モニタリング、施設支援などのCRO業務を統合したイメージング技術を中心に活用する総合企業を目指す。既存のCRO業務の受託、医用画像診断支援システムの開発支援のほか、新規イメージング・バイオメーカーを開発し、日常診療に普及させていくことで、他社との差別化を図る。鈴木宏昌取締役画像解析事業部長は「開発から日常診療までを網羅する独自のイメージング技術を提供していきたい」と意欲を示す。

マイクロン

マイクロンは05年に設立し、癌、中枢神経系、循環器領域などの臨床試験にPETやCTなど医用画像を用いたイメージング技術を提供している。治験でのモニタリング業務や画像中央判定事業、医用画像診断支援システムの開発・販売が主

スレコードとマイクロンのイメージング技術を連携した新しい治験サービス開発に向け、第一歩を踏み出した。

また、今年1月には社内体制を刷新した。画像解析、モニタリング、施設支援業務を横断的に管理するプロジェクトマネージャーのCEホールディングスと資本業務提携を結び、経営基盤の安定化を図ると共に、同社が保有する電子カルテに直結したパーソナルヘル

だが、今後は25年ビジョンとしてイメージング技術を多面展開した事業モデルを構築する方針で、鈴木氏は「これからもCRO業務、プログラム医療機器の開発などは継続して行うが、イメージング・バイオメーカーの開発・普及も目指したい」と展望を語る。

ているが、マイクロンでは製薬企業が行う臨床試験と並行して、新規イメージング・バイオメーカーの確立を目指している。新規の治療薬、治療法の確立には、同時にバイオメーカーの開発も要求されることから、製薬企業と協力しながら新薬の臨床試験で指標となるイメージング・バイオメーカーを開発し、日常診療でも利用できるよう普及を目指す。医薬品・医療機器のみならず、再生医療分野で治療効果の有無が確認できるサロゲートエンドポイントとして、イメージングは非常に活発な状況であり、先端的な治療法にも応用していきたい考えた。

さらに、臨床試験ならびに日常診療におけるイメージング・バイオメーカーの標準化推進と、イメージング・バイオメーカーを含む画像診断技術の臨床応用促進を主な事業とする一般社団法人「イメージング・バイオメーカー標準化推進ネットワーク」を支援し、イメージング・バイオメーカーの普及に寄与する。

鈴木氏は、「アカデミアや学会と共にガイドラインを作っていく」と語る一方、「最新のイメージング技術を日常診療へ普及するためには、使うための教育が必要という声のもと、開発して終わりではなく、日常診療の中で育てる必要がある」と強調。自社事業にとどまらず、アカデミアや学会との協力を通じてイメージング・バイオメーカーが広く有効に利用される社会づくりに貢献したい考えを示した。